

2021年12月1日

幼保連携型認定こども園 **西神戸 YMCA 保育園 12月えんだより**

12月聖句： 「おめでとう、恵まれた方」

＜ルカによる福音書第1章28節＞

今年は、秋から冬へとスピードをあげて季節が進んでいるように感じます。子ども達のクリスマスの賛美歌が響きわたり、朝晩の寒さを肌で感じる12月が始まります。キリスト教では、クリスマスの前に、自らを振り返り、悔い改めの時を過ごす、アドベントと呼ばれる期間にろうそくの灯を1週毎に1本ずつ灯しながら過ごし、「希望」「平和」「喜び」「愛」の意味を考えていきます。12月は特に何かと気忙しい時ではありますが、この時こそ立ち止まり、自らのありようや様々な

現実の出来事に思いをはせて祈る時としたいです。

さて、当YMCAが運営を担う、明石駅前の「あかしこども広場」では、様々な講座を行っています。その中に「初めてのパパ・ママ講座」と題した講座は、生まれてくる命を受け入れる、心の準備を保護者と共にすることを目的に、助産師の方と共に行っています。皆さんも初めて親になった時を思い返し、又想像していただくと、嬉しさ、怖さ、喜び、不安、願い、緊張、責任…等様々な思いを抱かれた方もいたのではないのでしょうか。

表題に掲げた今月の聖句は、イエス・キリスト（救い主）の母となるマリアに、天使が告げた言葉です。「おめでとう」と告げられ、「恵まれている」と祝福され、「神様が共にいてくださる」と約束されているのですから嬉しいメッセージです。しかし、これはとても大変な出来事であったのです。

マリアは14、15歳の少女と言われ、そんな彼女が新しい命を宿すのです。それも「神様の子」「混沌とした世を救う救い主」という重大な使命を、神様は、年若い者に託されたのです。一体誰がこんなことを信じてくれるのでしょうか。信じるどころか、当時の世界で婚約者のヨセフを裏切ってマリアは懐妊したという疑いを抱かれて、刑に処せられるかもしれない恐怖や不安で、喜びどころではありません。マリアにとって天使の言葉は、少しも嬉しい知らせではなかったのです。

信じ難い現実を受け入れるのはとても勇気のいることです。ゆえに神様は、私達に互いに助け合う存在である、人間の仲間を与え下さり、私達に勇気と力を下さいました。クリスマスは、天使、星、博士、羊飼いや全ての存在がその時、その瞬間に存在して、救い主の誕生という奇跡が生まれて2000年以上の年月も語り継がれています。

「お言葉通りになりますように」と、全てを恐れず、ただ神様を信じて委ねていく歩みの始まりが、救い主の誕生を祝う「クリスマス おめでとう」という一句なのです。

12月	乳児 (0,1,2 歳児)	幼児 (3,4,5 歳児)
月主題	うれしいね	喜び合う
月の願い	<ul style="list-style-type: none"> * クリスマスを迎える雰囲気を楽しみ、喜んで待つ * 保育者や友だち、家族と一緒にクリスマスを喜ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> * クリスマスの意味を知り、喜びをわかちあう * いろいろな人のことを思い、自分ができていることを考える * 心を合わせて表現することを楽しむ
讃美歌	おほしがひかる	きよしこのよる こども改訂 74

年主題 『共に喜んで』 ～ すべての歩みの中 ～